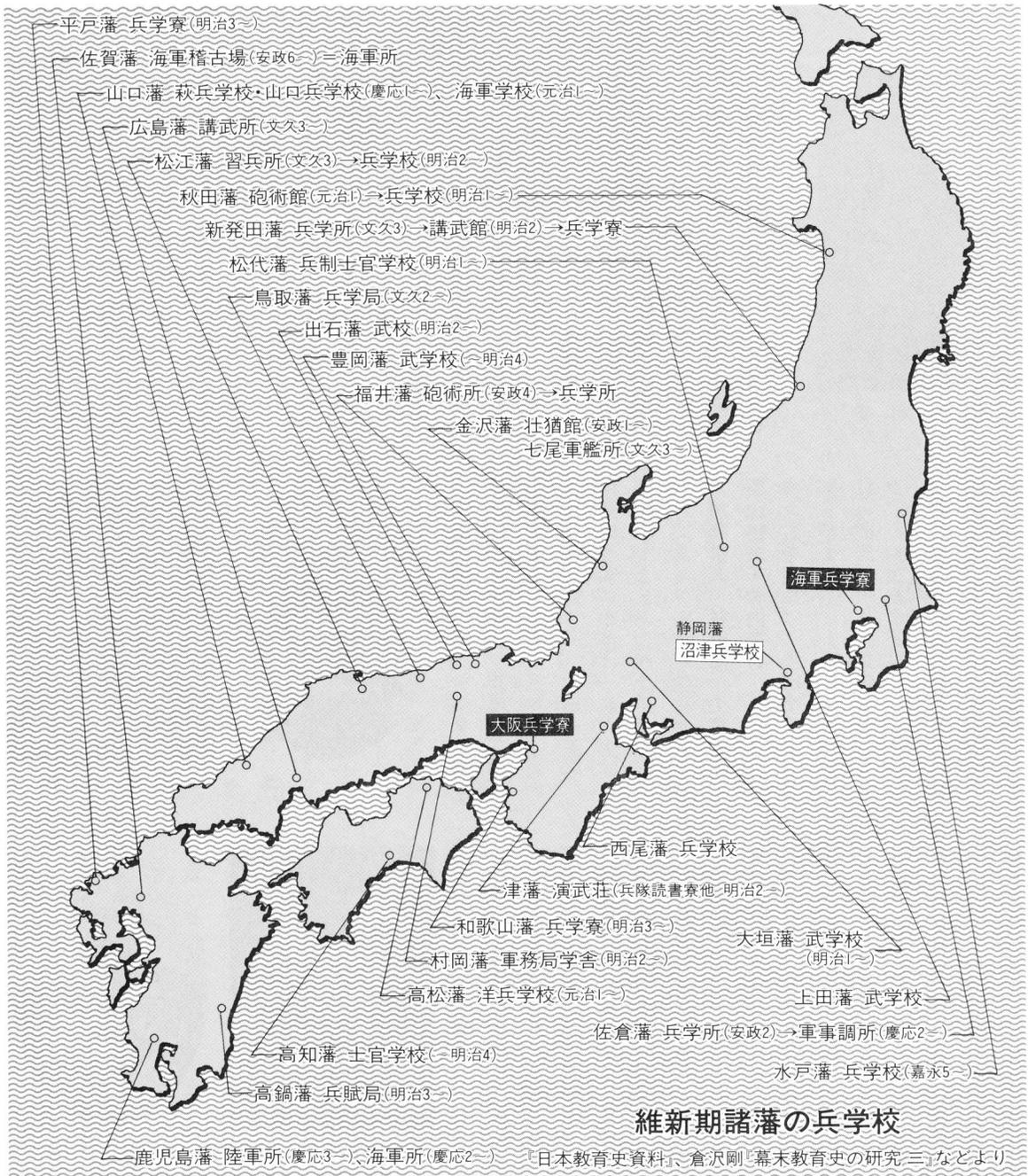


沼津市

明治史料館通信

1990. 4. 25 (季刊 年4回発行) Vol. 6 No. 1 通巻第21号



シリーズ
沼津兵学校とその人材

大阪兵学寮への転校生

明治四年の廃藩置県までは、諸藩はそれぞれ兵を擁し、独自に軍事教育機関を設けていた（前頁図参照）。静岡藩の沼津兵学校もそれらのひとつに過ぎない。

一方、明治政府は、東京や京都・大阪に陸海軍の学校を建設し、将来の全国的兵制統一に向けて第一歩を踏み出していた。明治元年八月京都兵学校（のち京都兵学所と改称）、二年九月海軍操練所が設置され、三年にはそれぞれ陸・海軍兵学寮となる。

大阪兵学寮は、二年七月京都兵学所が移転されたもので、大阪城内にあった。三年十一月には正式名称が陸軍兵学寮となり、五年には東京に移転されるが、その間も

大阪兵学寮と通称される。

同校は、青年学舎（後の士官学校）、幼年学舎（後の幼年学校）、教導隊（後の教導団）に分かれていた。教授陣は諸藩出身の兵学者とフランス人教官で構成されていたが、中でも旧幕府出身者が少なく

なかった。特にその中には政府の徴命で出仕した沼津兵学校関係の静岡藩士が含まれていた。術科教官の筆頭で生徒たちから「鬼教官」として恐れられた揖斐章は、沼津兵学校三等教授の出身、三年十月に赴任した永持明德も同じく沼津の三等教授出身、フランス人教官の通訳も担当した練兵教官河津祐賢・別所光武の二人も沼津移住の旧幕臣だった。

沼津の三等教授出身、フランス人教官の通訳も担当した練兵教官河津祐賢・別所光武の二人も沼津移住の旧幕臣だった。



河津 祐賢



永持 明德



小島 好問



村田 惇



加藤 泰久



三宅 直利

大阪兵学寮、特に青年学舎の生徒はほとんど全部が諸藩からの貢進生であった。明治三年閏十月の太政官布告により、大藩は五名、中藩は三名、小藩は一名の生徒を差し出すこととされたのである。

静岡藩では沼津兵学校資養生から加藤泰久・村田惇・小島好問・栗山勝三・竹内有好・権田正三郎の六名を選抜し、権田を除く五名を三年十二月に大阪へ派遣した。

彼らは四年一月に幼年学舎に入學した。藩では付添に生徒取締として石井至凝・原田信民の二人の年長資養生を大阪まで同行させた。ちなみに加藤と村田は安政元年生

まだだから、この時十六・七歳だった。五人は学校が東京に移転された後もそろうって士官学校に進み、西南戦争で戦死した竹内を除き、村田は中将、加藤・小島・栗山は少将にまで昇った。

四年四月には兵部省から静岡藩等に対し八〜二十名の生徒を教導隊に差し出すよう達があり、静岡藩では五〜六月に藩内各所から二十五六名を選抜し大阪へ送った。教導隊は下士官養成を目的としていたが、乃木希典や児玉源太郎もその出身者だったように、静岡藩選抜者からも村上義永大佐・三宅直利大尉ら将校が出た。

江原素六とその周辺 (12)

長男 江原帯一

江原素六は縫子夫人との間に四男三女があつた。中でも長男の帯一は父の期待を一身に背負い、沼津中学校から明治学院、さらに札幌農学校に進学し、将来を嘱望されていた秀才だった。



札幌農学校教授大島正健と江原帯一ら生徒たち

明治26年(1893)10月、大島が同志社に転任するに際し、送別の記念として基督教青年会員一同が集合して撮影したもの

明治学院では、一級上に島崎藤村がいたほか、同級生として同郷の小出道也(一八七三—一九一七)、浜島福次(一八七二—一九〇二)らがいた。小出は、ジェームス・バラに感化され義兄花島兵右衛門とともにキリスト教主義の女子校、薔花女学校を経営した三島教会の長老小出市兵衛の息子である。浜島は、沼津藩士服部純の次男で、

から童話へ)。札幌農学校での帯一への消息は、沼津の父母にあてた手紙などから断片的に伺い知ることができ、しかしその後帯一は肺を病み、東京や沼津の病院で入院を繰り返す、長い療養生活を送ったうえ、明治三十六年(一九〇三)に満二十九歳で亡くなった。その日の素六の日記には「嗚呼帯一召れる」とのみある。最愛の息子を失った悲痛な心情は、女婿高山長幸に送った長文の手紙にも吐露されている(『江原素六先生伝』所載)。

江原帯一の略歴と人柄は以下に掲げる弔辞にまとめられている。君ハ明治六年六月廿九日駿河国駿東郡金岡村西熊堂二産ル明治十二年四月同郡東沢田村敬身舎ニ入学同十七年三月全科卒業同年四月沼津中学校ニ入学同廿年七月東京明治学院ニ入学当時君悟ル所アリ奮然北海道ニ赴キ明治廿四年七月札幌農学校ニ入学専ラ牧畜学ヲ研究傍ハラ植物採集ノ事ヲ務メタリ君幼時資性穎敏活達人一見シテ風采ノ非凡ナルヲ知ル長スル及テ品性

明治学院 創立期の 功労者であり後に 衆議院議員になつた服部綾雄の弟にあたる。 江原帯一と小出・浜島らは 実の兄弟のように 仲良かったという (小出正吾『童話

端正学業勉勵常ニ優等ノ位置ニ在

殊ニ札幌在学中ハ凜寒ヲ意トセズ孜々精勵苦学セラルカフルニ尊嚴ノ素養ニ從ヒ勤儉ノ美德ヲ備フルカ故ニ恒ニ学生間ニ於テ尊敬セラル君已ニ農学卒業ノ年ニ至リ不幸ニシテ卒然痼疾ニ罹リ而來療養百方情リナキ事茲ニ数年而シテ本月廿一日ノ夕ニ至リ病勢速クニ相革マリ午後九時遂ニ永眠セラレタリ嗚呼悲ヒ哉君ハ曾テ深ク基督ヲ信奉シ学業ノ余暇基督ノ為ニ尽力セシ事甚々勉メタリト云フベシ且常ニ自カラ媚ヘラク我カ体ハ神ノ殿タリ之ヲ輕視スベカラスト乃チ病中撰養ノ周到ナルト病症ノ伝染質タルニ注意シテ隣室ニ至ルモ苟モ消毒水入りノ痰壺ヲ手ニセザルコトナシ能ク伝染病者ノ責任ヲ重ンシラレタリ且其疾病ノ到底不起ナル何時主ノ召ヲ蒙ルベキカラ自覚シ其準備充分ニシテ死ニ対スル一点ノ畏怖ナキガ如シ故ニ病中六年或ハ花弁ヲ培ヒ家禽ヲ飼ヒ常ニ欣然トシテ恰モ病中ノ人ニアラザルガ如シ特ニ永眠当日ノ如キハ一層愉快ニ談笑セラレ數分ノ後俄然天国ノ人トナレリ

明治廿六年一月廿三日

お知らせ欄

◎「沼津市博物館紀要14」刊行の御案内

体裁…B5判一三〇ページ
価額…一五〇〇円

内容…瀬川裕市郎・小池裕子「煮堅魚と埴形土器・覚え書」、増島淳「県東部地区の縄文土器作製地について」、上野裕二「沼津藩領大浜について―大浜陣屋の『日記』を中心として―」、樋口雄彦「維新时期沼津藩(菊間藩)の藩政改革」、同上「史料紹介『忠友公年限帳』と『田菊間藩土人名録』」

◎沼津市明治史料館史料目録2〜5刊行の御案内

既刊の史料目録1『江原素六関係史料目録』に続き、以下のよう
な目録を刊行しました。

- 2 『石川森家文書目録』 B5判 三〇〇頁 三〇〇〇円
- 3 『上石田区有文書目録』 B5判 九〇頁 九〇〇円
- 4 『東椎路区有文書目録』 B5判 一四〇頁 一〇〇〇円
- 5 『東熊堂・西熊堂区有文書目録』 B5判 八〇頁 八〇〇円

◎ゴールデンウィーク中の開館
休館日…4月30日(月)、5月1日(火)、
5月7日(月)

これ以外は開館しています。

◎5月19日は無料開放日

江原素六の命日を記念し、5月19日は観覧料が無料になります。

◎職員人事異動のお知らせ

昭和60年6月より館長をつとめて参りました小野隆雄は3月一杯で退職し、後任には社会教育課長内村寿男が兼務することになりました。また、昭和63年4月よりつとめて参りました嘱託小針一郎は昨年10月で退職し、後任としてこの4月から堤健二(前原小学校教頭)が就任することになりました。今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

◎受贈刊行物の御紹介

葦山町史第五卷上(葦山町)、関西大学百年史通史編上・人物編・関西大学百年のあゆみ(関西大学)、地方文人の生活と思想(渡辺愛子)、工業教育の慈父手島精一伝・日本の科学の夜明け(道家達将)、地理全志・瀛環表(忠震会)、静岡県史資料編14・16(静岡県)、静

岡市史(静岡市)、富士宮市史(富士宮市)、伊豆の郷土研究14(田文協)、浮島(浮島小学校)、沼津市西浦久連渡辺家三代記(渡辺忠吉)、東京製綱百年史(東京製綱株式会社)、戸塚神父伝(聖ヨハネ会)、若き明石桜井成明(川崎司)、在野史論(原井慈鳳)、城山町史4(城山町)、大久保山の生涯(松庫工業株式会社・駿東興産株式会社)、創立100周年記念誌ぞでし(清水市立袖師小学校)、開校五十周年誌(沼津市立第五小学校)、久能文庫目録(静岡県立中央図書館)、史跡葦山反射炉保存修理事業報告書(葦山町)、東京大学史紀要第7号(東京大学史史料室)、大地No.13(山下太郎)、菊川地域鉄道史(菊川町)、市立静岡病院建設落成記念誌(静岡市立静岡病院)、安藤野雁と岩淵(大村保)

以上、平成元年度に受贈した主なもの(寄贈者敬称略)。なおこれ以外にも、他の都道府県・市町村の博物館・文書館・自治体史編さん室などから寄贈された諸刊行物が多数あります。

◎江原素六先生顕彰会が「江原牧場跡」の碑を建てました

三月三十一日、江原素六先生顕彰会の皆様によって明治七年に江原素六がつくった牛の牧場跡に石碑が建てられました。場所は松沢町・高尾台から愛鷹運動公園・少年自然の家方向に愛鷹山を登り、東名高速にかかる松沢橋を渡り、一五〇メートルほど行ったところを右に細い道を入った場所で、養豚場の北側です。この位置は牧場を囲んだ土塁の北辺にあたります。なお本通信の前号に写真を掲載した西辺の土塁は、道路拡張工事のため現在は消滅してしまいました。



沼津市明治史料館通信 第21号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂372-1

☎〇五五九(23)三三三五